



ハマヒサカキ

40. ハマヒサカキ

(*Eurya emarginata*)

喜界町自然保護条例指定植物

花期：12～1月

方言名：4) ヒダイ



葉

★庭木や盆栽、床花として利用する。「ハマ」と名がつくが喜界島では山にも生育している



モクタチバナ

41. モクタチバナ (*Ardisia sieboldii*)

花期：4～6月

方言名：1) アクチャーギイー、4) アクチャギイ、5) アクチャー



★サンギシ(竹馬)を作る時に使った。実は可食。大島紬の染色、灰は藍染の添加剤となった。幹に枝が落ちた跡が残るのが特徴

実(上)・幹(下)



サルカケミカン

42. サルカケミカン

(*Toddalia asiatica*)

花期：冬～春

方言名：1) サルカキ、5) サッカチ、12) サッカチー(湾・中間)



★シロオビアゲハの食草。鋭い刺があるので注意。この刺で他の木などに絡み

刺(上)・葉(下) ついてよじ登る



ゴモジュ

43. ゴモジュ

(*Viburnum suspensum*)

花期：12月～2月

方言名：1) グムルー、5) グンムルー、12) グンムー（島中）・グンムルー（中間・湾）

★ 葉をこするとゴマの香りがする。



花

実は可食。幹が細く弾力に富むので馬の鞭などに用いた



ツルモウリンカ

44. ツルモウリンカ (*Vincetoxicum tanakae*)

花期：4～9月

方言名：-

★ アサギマダラやリュウキュウアサギマダラの食草。星の様な形の花をつける。茎はつる状に長く伸びるが、隆起サンゴ礁や海岸岩場では矮小化する傾向にある



サツマサンキライ

45. サツマサンキライ

(*Smilax bracteata*)

花期：2～4月

方言名：5) サンキラー、12) カクランハー（湾）



花(上)・実(下)

★ 餅（団子）を包む時に使う。小さな花が集まった花火の様な可愛い花をつける



ハマスルトロイバラ

46. ハマスルトロイバラ

(*Smilax sebeana*)

花期：3～5月

方言名：1) サンキラ、5) サンキラー

★和名は、猿も引っかかりそうな刺があることに由来するが、本種はほとんど刺がない。若葉は赤く色づき、シャンデリアの様な花をつける



カラスキバサンケイ

47. カラスキバサンケイ (Smilax insularis)

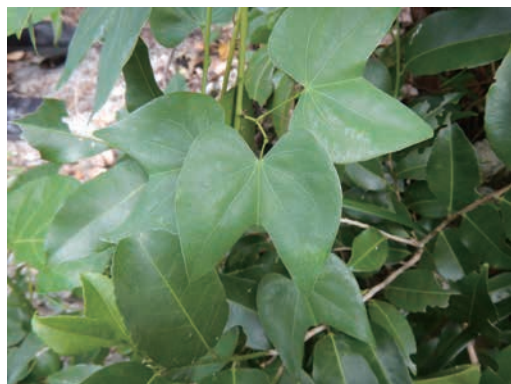
花期：2～4月

方言名：4) サンキラー

★和名の由来は、葉の形が唐鋤(カラスキ)に似ていることによる。サツマサンケイと異なり花は小さく目立たない。実は黒く熟する



実



ハカマカズラ

48. ハカマカズラ

(*Bauhinia japonica*)

花期：5～6月

方言名：4) ハクマー

★和名は、葉が袴状に分かれていることに由来。夜になると葉を半分から閉じる。琉球列島では普通に見られるが日本本土では珍しく、長崎県では県の天然記念物に指定されている



フウトウカズラ

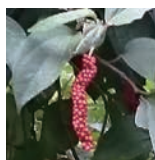
49. フウトウカズラ

(*Piper kadsura*)

花期：3～5月

方言名：4) ウシハンダ、5) ウシカンザー、10) ウシンカンザー

★ コショウに似た果実をつけ、葉



実

や実はコショウに似た香りがある。地面を這う葉と木や岩壁に上った葉で形が異なる



オオイタビ

50. オオイタビ (*Ficus pumila*)

花期：春～夏

方言名：5) イチャー、10) チッチャバー

★ 秋になる雌株の果実は食べるこ



果のう
(中に花がある)

とができるが、雄株の果実は食べられない。茎や葉を傷つけると出てくる白い液は皮膚の敏感な人はかぶれることもあるので注意



ヤブラン

51. ヤブラン (*Liriope muscari*)

花期：夏頃

方言名：-



花

★「ラン」と名がつくが「ラン」の仲間ではなく、クサスギカズラ科の植物。リリオペとも呼ばれ、園芸用として様々な品種が存在する



ノシラン

52. ノシラン (*Ophiopogon jaburan*)

花期：8～9月

方言名：1) イシビル

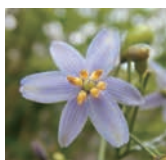
★「ラン」と名がつくが「ラン」の仲間ではなく、クサスギカズラ科の植物。葉はヤブランに似るが、より長くて幅広い。コバルト色の美しい実をつける。和名の由来は葉が「熨斗」の様に平たいことによる



キキョウラン

53. キキョウラン

(*Dianella ensifolia*)



花期：4～7月

方言名：-

★「ラン」と名がつくが「ラン」の仲間ではなく、ワスレグサ科の植物。花は青紫色でコバルト色の

花(上)・実(下) 実をつける



オニヤブソテツ

54. オニヤブソテツ

(*Cyrtomium falcatum*)

花期：-

方言名：-

★「ソテツ」と名がつくがソテツでは無く、「シダ」の仲間。シダ植物のため花をつけずに胞子で繁殖する。葉に光沢があり美しいので観葉植物として栽培されることがある



ソテツ

55. ソテツ (*Cycas revoluta*)

町指定天然記念物「巨大ソテツ（嘉鈍）」・
「ソテツ群生（中間）」

喜界町自然保護条例指定植物

花期：5月中旬～6月中旬

方言名：5) スティター、7) スッター

★かつては実や幹に含まれるデンプンを毒抜きして食用（粥・味噌）にした。葉は薪や堆肥として利用した。また、葉で虫籠を作ったり、綿を採って鞆を作った



センニンソウ

56. センニンソウ

(*Clematis terniflora*)

花期：夏～秋

方言名：4) ミッツファーハンザ

★有毒（切断面の汁に触れるとかぶれる。食用不可）。和名の由来は、実の先端の白く長い毛を仙人のヒゲに見立てたことによる



葉



タイワンウオクサギ

57. タイワンウオクサギ (*Premna serratifolia*)

花期：3～6月

方言名：5) ハマチャマー



葉

★生木の時は軟らかく、枯れると硬くなるので沖永良部島では豚の餌桶（トーニ）として使われた。花にはよく蝶が集まる



ヤマヒヨドリバナ

58. ヤマヒヨドリバナ

(*Eupatorium variabile*)

花期：8～11月

方言名：1) ムシナー (川嶺)

★ 秋に小さな白い花を多数つける
アサギマダラが蜜源として好む。



葉

子豚の駆虫剤
として利用され
た



テリハツルウメモドキ

59. テリハツルウメモドキ

(*Celastrus punctatus*)

花期：3～5月

方言名：-

★ 楕円型で光沢の
ある葉をつけるつる
性植物。庭園樹・盆栽
・切り花などに用
いられる



花(上)・実(下)



ヒオウギ

60. ヒオウギ (*Iris domestica*)

花期：6～8月

方言名：1) ビトウナニヤー、5) ビ
トナーニヤー

★ 扇のように広がった葉が特徴的
なアヤメの仲間。
橙色に暗赤色の
まだら模様の
入った花をつけ
る。かつては薬
用として利用さ
れた



花



ガジュマル

61. ガジュマル

(*Ficus microcarpa*)

町指定天然記念物「ガジュマル群（手久津久）」

喜界町自然保護条例指定植物

花期：春

方言名：1) ガジマラー、5) ガジマル、



果のう
(中に花がある)

12) ガンマラー

★ 防風林として古くから利用される。花は実の中に咲くので外からは見えない



ハマイヌビワ

62. ハマイヌビワ

(*Ficus virgata*)

花期：4～5月

方言名：4) ヒイチンギ・ポーチャー

5) マンジューキー・ヒチンキー、



葉

12) ヒチンギー(島中)・フィチギ(中間)

★ 飼料や緑肥として利用された。イヌビワと似るが、左右非対称の大きな葉をつける



ゲッキツ

63. ゲッキツ

(*Murraya paniculata*)

花期：6～9月頃

方言名：1) ディッチュー・ディッ



葉

チューギー(中里)、4) デッチュー、5) ディッチュー、10) ドゥーチュー木

★ 庭垣として使用された。材は鎌や鍬の柄、楔に利用された



サクララン

64. サクララン

(*Hoya carnosa*)

花期：春・秋

方言名：1) チークワーシャー (川嶺)、4) チークワシャー



花

★「サクラ」でも「ラン」の仲間でも無い。ホヤと言う名前でも多くの園芸種がある



キヅタ (幼葉)

65. キヅタ (*Hedera rhombea*)

花期：10～12月

方言名：4) シビ・シビー

★別名「フユツタ」。幼葉と成葉で形が異なる。汁液で皮膚がかぶれることがあります、



花

有毒のため食用は不可



サダソウ

66. サダソウ

(*Peperomia japonica*)

花期：春

方言名：-

★コショウの仲間。和名は大隅半島の佐多岬で発見されたことに因む。細長い円柱状の花が咲く。ペペロミアと呼ばれ、多くの園芸種がある



花



ツゲモドキ

67. ツゲモドキ

(*Putranjiva matsumurae*)

花期：3～5月

方言名：-



葉

★ 葉は左右非対称。雌雄異株で雄花・雌花ともに花弁を持たない。実は卵状の楕円形で白い毛が密生する。ナミエシロチョウの食草



タブノキ

68. タブノキ (*Machilus thunbergii*)

花期：2～3月

方言名：4) タブ・タブヒーキ、5) タブ、12) タフノキ(湾)・タブヒー(中間)



葉

★ 新芽は赤く染まり花の様に目立つ。葉をちぎるとクスノキ科特有の香りがある。赤い柄の先に黒い実をつける



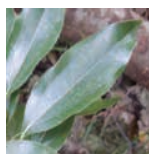
ヤブニッケイ

69. ヤブニッケイ

(*Cinnamomum yabunikkei*)

花期：4～6月

方言名：3) ディクミャー・ディクニャー(阿伝) 4) ジクミ、5) ジクミャー、9) ジイクミャー(志戸桶)、12) ジクマー(早町)



葉

★ 葉をちぎると特有の香りがする。庭木や薪炭材、実はカカオの代用として利用された。また、葉ではったい粉をすくって食べたりした



ハマアズキ

70. ハマアズキ (*Vigna marina*)

花期：4～10月

方言名：-

★世界の熱帯地域に広く分布する。アズキに



花

よく似た種子をつけ、海流
散布で広がる。近年、分布
が北上している



グンバイヒルガオ

71. グンバイヒルガオ

(*Ipomoea pes-caprae*)

花期：周年？

方言名：2) ハマハンダ（池治）、4)
ファマカンザ

★世界の亜熱帯・熱帯に広く分布。
種子は水に浮きやすく、海流によっ
て散布される。アリモドキゾウム
シの寄生植物であるため南西諸島
からの移動が規制されている



クロイワザサ

72. クロイワザサ

(*Thuarea involuta*)

花期：7～12月

方言名：-



花

★小さなササの様
な葉を持ち、櫛の
様な花をつける。
在来の緑化植物種
として琉球大学で
は植栽されている



ハマゴウ

73. ハマゴウ (*Vitex rotundifolia*)

花期：春～秋

方言名：1) ホウ・ホー、9) フォーギィ (志戸桶)

★ 砂浜で茎を砂中に長く伸ばして群生する。葉に強い芳香があり、淡青紫色の花をつける。果実は蔓荊子（まんけいし）と呼ばれ生薬となる。燃やすと蚊除けになる



ツルナ

74. ツルナ

(*Tetragonia tetragonoides*)

花期：2～9月

方言名：-



花(上)・葉(下)

★ 葉は食用となる。ゆでて冷水にさらして使う。和え物・炒め物・汁の実など様々な使える。鹿児島ではハマヂシャと呼ばれ利用されていた



ネコノシタ

75. ネコノシタ (*Wollastonia dentata*)

花期：7～10月

方言名：-

★ 和名は葉が猫の舌の様にざらつくことによる。日本各地で減少しており、様々な地域で絶滅危惧種に指定されている。大阪府では絶滅したとされる。別名ハマグルマ



葉



ハマウツボ

76. ハマウツボ (*Orobanche coerulescens*)

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)(環)

花期：5～7月

方言名：-



花

★ 葉緑素を持たない寄生植物でヨモギの仲間に寄生する。全国的に分布するが琉球列島では珍しい



ハマタイゲキ

77. ハマタイゲキ (*Chamaesyce atoto*)

花期：5～10月

方言名：-

★ 砂浜に生える多年草。別名「スナジタイゲキ」。種子島・屋久島～琉球に分布し、沖縄永良部島以南にはよく似たリュウキュウタイゲキが生育する



ハマナタマメ

78. ハマナタマメ

(*Canavalia lineata*)

花期：4～12月

方言名：5) ウマンマラー

★ 海岸に生えるつる性の植物で、淡紅色の花を咲かせる。大きな豆



花と豆果

状の種子をつけ、食べられそうに見えるが有毒のため食用不可

79. ハマヒルガオ (*Calystegia soldanella*)

花期：5～6月

方言名：-



ハマヒルガオ



花

★ 砂浜に生えるつる植物で、花は淡紅白色で中心は白い。内陸部でも見られ、島内では比較的標高の高い所にも生育している

80. ハマボウフウ

(*Glehnia littoralis*)

花期：5～7月

方言名：1) ハマジリ、2) ハマニリ

★ 砂浜に生える多年草。若葉や根は食用となる。また、根及び根茎は



ハマボウフウ



実

生薬として利用される。近年、島内においても数が減りつつある

81. ミツバハマゴウ

(*Vitex trifolia*)

花期：春～夏

方言名：1) ホー・フー 5) ホー、12)

ホーギー (島中・花良治)・ホウギ

(中間)



ミツバハマゴウ



花

★ 葉はハーブティー、実は肉料理のスパイスとして利用できる。かつては燃やして蚊除けにした



リュウキュウヨモギ

82. リュウキュウヨモギ

(*Artemisia morrisonensis*)

花期：3～4月

方言名：-



花

★ 砂浜に生える羽状の葉が特徴的な植物。沖縄ではハママーチやインチングサと呼ばれ薬用に用いられていた。喜界島が分布の北限



シロミルスベリヒユ

83. シロミルスベリヒユ

(*Sesuvium portulacastrum* var. *friseur*)

花期：6～12月

方言名：-

★ 星形の白い小さな花をつける。



花

葉は多肉質で程よく塩分を含み美味しい。久米島や伊良部島では食用としていた



イボタクサギ

84. イボタクサギ

(*Volkameria inermis*)

花期：初夏～夏

方言名：1) サニー

★ 葉をちぎって揉むと特有の臭いがする。種子は海流で散布され、



花

国外では台湾～オーストラリアなどに広く分布する



ヒメタツナミソウ

85. ヒメタツナミソウ (*Scutellaria kikiyai-insularis*)

喜界島固有種
絶滅危惧ⅠB類(E N)(環)
国内希少野生動植物種
町指定天然記念物



閉鎖花

花期：3～4月

方言名：-

★近年、荒木中里遊歩道付近でも生育が確認された



リュウキュウコケリンドウ

86. リュウキュウコケリンドウ (*Gentiana satsunanensis*)

絶滅危惧Ⅱ類(V U)(環)

花期：3～5月

方言名：-

★とても小さく見つけづらいが、喜界島では海岸近くの芝地で比較的良好に見られる。奄美大島のものは喜界島等からの移入とされている



リュウキュウコザクラ

87. リュウキュウコザクラ (*Androsace umbellata*)

花期：3～5月

方言名：-

★長い花柄の先に小さな白い花をつける。島内では比較的良好に見られ



花

るが、日本本土では絶滅危惧種となっている地域もある。兵庫県や徳島県では絶滅したとされる



ナンゴクネジバナ

88. ナンゴクネジバナ

(*Spiranthes sinensis* var. *sinensis*)

花期：2～5月

方言名：-

★ 日当たりの良い草地で見かけるランの仲間。淡紅色の花をらせん状に多数つける。2023年に日本本土において新種（ハチジョウネジバナ）が発見された



クソエンドウ

89. クソエンドウ (*Thermopsis chinensis*)

花期：12～3月

方言名：4) シチンサ

★ マメ科の植物。和名は葉などを揉むと悪臭がすることによる。黄色の可愛らしい花を咲かせる。鹿児島県の絶滅危惧種に指定されている



オオキダチハマグルマ

90. オオキダチハマグルマ

(*Wollastonia biflora* ver. *ryukyuensis*)

花期：5～11月

方言名：1) ナンマンダー（早町）、
4) ナンマンダー



花

★ 場所によっては隙間が無いほど繁茂する。道路脇の造成された場所に多い